

氏名	黒田 梨絵		
学位の種類	博士（看護科学）		
学位記番号	博甲第 8217 号		
学位授与年月	平成 29 年 3 月 24 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	患者からの暴力に対する看護師の対応知識チェックリストの作成		
主査	筑波大学教授	博士(工学)	川口 孝泰
副査	筑波大学准教授	博士(看護学)	小泉 仁子
副査	筑波大学准教授	博士(保健学)	涌水 理恵
副査	筑波大学准教授	博士(医学)	高橋 晶

論文の内容の要旨

黒田梨絵氏の博士学位論文は、看護師の暴力被害の深刻さが増す中、患者からの暴力に対する看護師の対応手段となる「患者からの暴力に対する看護師の対応知識チェックリスト」を作成することを目的に行われたものである。その要旨は以下のとおりである。

(目的)

著者は、国内における看護師の暴力被害の深刻さが増す中、患者からの暴力に対して、看護師がどのように対応するかが重要となるかについて、先行研究を概観し、「暴力発生前の知識」「暴力発生時の予測や判断の知識」「暴力行為に適切に対応するための知識」「患者－看護師関係を大切にし、解決に向けた知識」の 4 つを「患者からの暴力に対する看護師の対応知識」と捉えて研究を行っている。先行研究では、暴力のリスクアセスメントや暴力への介入技術の自己評価などに関する尺度開発の研究はなされているが、患者－看護師関係において、解決に必要な知識を予め確認し、暴力に対応するツールは見当たらなかったとしている。そこで著者は、患者からの暴力に対する看護師の対応知識に関わるためのチェックリストを作成し、作成したチェックリストの信頼性・妥当性を検証することで、実際に活用できる「患者からの暴力に対する看護師の対応知識チェックリスト」を作成することを目的として研究を行っている。

(方法)

研究は、以下の 3 つで実施された。

審査様式 2 - 1

研究Ⅰ．患者からの暴力に対する看護師の対応知識の抽出と素案の作成

予備的調査として患者からの暴力に対する看護師の対応知識に関する構成要素の抽出を目的に、包括的暴力防止プログラムインストラクターである看護師や看護師長・副師長 7 名により、半構成的面接法にてインタビュー調査を行っている。

研究Ⅱ．チェックリスト素案の内容的妥当性の検討

素案の内容的妥当性を検証することを目的に、病院に勤務する医療安全・教育を担い、暴力対応経験のある臨床経験 5 年以上の看護師 28 名を対象として質問紙調査が行われている。

研究Ⅲ．患者からの暴力に対する看護師の対応知識チェックリストの信頼性・妥当性の検討

最終案とした項目群の信頼性・妥当性の検討を目的に、病院に勤務する看護師 1,186 名を対象に、質問紙調査が行われた。また信頼性の検討は、Cronbach の α 係数の算出による内的整合性の検討が行われた。また妥当性の検討は、因子分析（プロマックス回転）の結果から構成概念妥当性の検討、および、本チェックリストと既存尺度との相関の算出による基準関連妥当性の検討が行われている。

（結果）

研究Ⅰでは、「暴力に対する看護師の対応知識」に関する表現を示す 696 のコードを得ている。さらに著者は、Krippendorff の内容分析の手順に従って分析し、37 のカテゴリーと 70 のサブカテゴリーを抽出した。この結果に基づき「患者からの暴力に対する看護師の対応知識チェックリスト」の素案となる 70 項目が設定された。研究Ⅱでは対象者 28 名のうち 26 名から回答が得られた。その調査結果を精査し、素案をさらに絞り込み、57 項目の最終案を提案している。研究Ⅲでは、1,040 名から回答を得た。そのうち、完全回答の得られた 644 名を分析対象とし、最終案の 57 項目について因子分析を行っている。その結果、25 項目 3 下位尺度が構成された。第 1 因子は 12 項目で、暴力発生時において、看護師の適切な言語的・身体的介入を表していることから、「適切な対応に関する知識」と命名された。第 2 因子は 7 項目で、暴力発生時において、患者が暴力をふるう背景を捉え、対象を理解し、病院側の意向も伝える、解決に向けた対応知識を表していることから、「患者理解の方法」と命名された。第 3 因子は 6 項目で、暴力発生時の患者の言動や状態から、暴力のリスク等を予測し、介入方法等の判断を表していることから、「患者の言動からの予測や判断」と命名された。本チェックリストの信頼性係数は、「全 25 項目」 $\alpha=0.742$ 、「適切な対応に関する知識」 $\alpha=0.731$ 、「患者理解の方法」 $\alpha=0.709$ 、「患者の言動からの予測や判断」 $\alpha=0.628$ であった。基準関連妥当性を検討した結果、「全 25 項目」 $r=-0.252\sim 0.096$ 、「適切な対応に関する知識」 $r=-0.236\sim -0.081$ 、「患者理解の方法」 $r=-0.100\sim -0.160$ 、「患者の言動からの予測や判断」 $r=0.078\sim 0.139$ とされた。

（考察）

暴力に対する「適切な対応に関する知識」は、言葉や態度で直接対応する具体的な対応知識が必要とされる。著者は、とくに「患者の言動からの予測や判断」は、判断に必要な知識が測定できるため、暴力発生時における、看護師の介入方法を示す指標となることを明らかにしている。また、患者が暴力行為に及ぶまでに至った精神的苦悩等から患者を理解し、ケアとして取り組むことも重要とし、「患者理解の方法」はこの点を含むものとして、暴力発生時における、暴力行為への対応だけではなく、患者－看護師関係の下、患者が暴力を振るうに至った思いや言葉に耳を傾け、患者の立場に立って患者を理解

し、解決のために必要な知識を測定できる当事者として看護師独自の内容があることを明らかにしている。

さらに著者が最終案とした項目の信頼性を検討した結果、信頼性係数は全 25 項目で $\alpha=0.742$ 、各下位尺度は $\alpha=0.628\sim 0.731$ であった。基準関連妥当性は「弱い関連がある」「関連がない」とされている。これらの結果は、本チェックリストが、知識の正誤を測定し得る独自のものであることを示唆している。

審査の結果の要旨

(批評)

本研究は、患者からの暴力行為に適切に対応するための知識だけでなく、患者－看護師関係の下、患者の立場に立ち、暴力を振るうに至った患者の思いを理解して解決に至る看護師独自の視点を反映した「患者からの暴力に対する看護師の対応知識チェックリスト」の作成を目的にしたものである。作成したチェックリストは、患者からの暴力に対して、新たな視点で看護師が適切に対応できる測定手段として、有効に活用できることが示唆された。

平成 29 年 1 月 30 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（看護科学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。